



## 修学旅行・・・発見と感動の沖縄4日間 今年を振り返り、新たな年へ向けて出発！

今月4日、ついに沖縄に降り立った甲府西高2年次生。美しいコバルトブルーの海、さとうきび畑、戦争と平和、友情と愛、新たな発見と感動の4日間でした。どんな思い出が心に刻まれたのでしょうか。

沖縄固有の歴史・文化と自然の美しさ、環境保護の大切さ、平和の尊さ、ひとつの命の重さ…。学んだことは実に多かったと思います。4日間を一緒に過ごし、友との語りも深められたことでしょう。どれもみな、皆さんの人生を豊かにしてくれるものと確信しています。それらを単なる「美しい思い出」だけで終わらせるのではなく、今の自分の生き方に反映させてこそ今回の修学旅行が価値あるものになるはず。修学旅行を通して学んだこと、得られた経験を今後の生活に生かし、さまざまな形で「成果」となって現れることを期待しています。



### 高校2年次生も残り3カ月・・・

皆さんにとって高校2年次としての2023年をどう評価しますか。自分に納得がいく一年を送ることができましたか。78年前、皆さんと同年代の沖縄の若者たちがどんな青春時代を送ってきたのか、彼・彼女らが何を思って命を散らせたのかに思いを馳せ、現地で見えてきたこと聞いてきたことには、たいへんな重みがあったはず。今日の日本は、平和で、豊かで、恵まれた環境にある、そう感じたことでしょう。終戦後、人々がどんな思いをして、どれだけの苦勞をして、今日の繁栄を築きあげてきたのかまで思いを巡らせ、私たちが今、こうして生きられることに感謝しよう。学校があり、勉強やクラブ活動、その他やりたいことに打ち込むことができる。であるならば、この時をもっと「熱く」生きよう。何事にも真剣に取り組んでこそ、充実感や感動は大きい。思うように行かずに味わう挫折や苦勞は、きっとあなたを成長させてくれます。これまでの自分の歩みを振り返り、自信を持って、希望を抱いて、新たな一歩を踏み出してみよう。

### 冬休みの過ごし方について・・・

短い期間ですが、学校を離れて家庭を中心にして過ごすこととなります。皆さんは普段、家での手伝いをしていますか？家庭も年末年始の多忙な時期です。「勉強だけで手一杯、手伝いなんかとても…」ではなく、家族の一員として年齢相応に家事や責任を分担してください。人として大切なことがそこにはあります。

### 【1月行事予定】

A：A週 B：B週 行：学校行事 を表します

日	曜	A/B	予 定
1	月		元旦、校内完全閉鎖(～1/3)
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		冬季休業終了
6	土		
7	日		
8	月		成人の日
9	火	B	2校時より平常授業、休業明け集会
10	水	B	
11	木	B	
12	金	B	ベネッセ総合学カテスト(2年)、冬季バイク通学許可式
13	土		ベネッセ総合学カテスト(2年)、大学入学共通テスト(3年)
14	日		大学入学共通テスト(3年)
15	月	A	きすなの日、第3回進路希望調査、大学入学共通テスト自己採点(3年)

日	曜	A/B	予 定
16	火	A	
17	水	A	生徒協議会、第5回マナーアップ運動
18	木	A	春季原付免許取得説明会
19	金	A	英検一次試験準会場(放課後1,2年)
20	土		課題論文中間発表会(1,2年)
21	日		
22	月	B	短縮45分授業、三者懇談(1,2年)
23	火	B	短縮45分授業、三者懇談(1,2年)
24	水	B	短縮45分授業、三者懇談〔16:00以降〕(1,2年)
25	木	B	短縮45分授業、三者懇談(1,2年)
26	金	B	短縮45分授業、三者懇談(1,2年)
27	土		
28	日		
29	月	A	短縮45分授業、三者懇談(1,2年)
30	火	A	短縮45分授業、三者懇談(1,2年)
31	水	A	短縮45分授業、大掃除、前期募集検査会場準備

## 保護者のみなさまへ

修学旅行につきましては、多大なご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。小雨が降り、強風も吹きましたが、美ら海水族館でのクラス写真撮影や、生徒が楽しみにしていたマリリン体験・班別タクシー研修、国際通り散策にはほぼ影響なく、むしろ変わりやすい沖縄の天気までも体験できました。その意味でも天候にも恵まれ、素晴らしい沖縄を五感と心で体感できた、有意義な修学旅行であったと思います。本当にありがとうございました。

さて2024年は、最上級年次になるとともに、進路実現に向けた活動が本格化していく年となります。年が改まる節目を迎える冬休みは、学校を離れ、内外に目を向け考えさせる絶好の機会であろうと考えています。家族の皆様と一緒に、学習のことだけでなく日頃の生活のこと、身の回りのこと、社会のこと、これまでの生き方とこれからのことなど語り合うとともに、家族団欒の時間をもっといただけたらと思います。

来年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◎2年次職員からの寄稿を紹介します。3組担任 柏木 洋和 先生からです。

沖縄への修学旅行お疲れ様でした。旅行中は、皆さんの解放的でとても楽しそうな様子が見られ良かったです。旅行期間では雨が心配されていましたが、1日目のみ雨天で、いつの間にかよく晴れて沖縄の素敵な景色・風景を楽しめましたね。海に飛び込んだ生徒（先生）は風邪をひいていませんか？ 学習はもちろん、学校行事も全力で楽しめるのが西高生のいいところですね。

さて、今年も1年が終わる年の瀬を迎えています。せっかくの節目ですので、西高に入学したところから、これまでの自分自身の活動を振り返る機会にしましょう。入学した時に思い描いた初心と比べてどうですか？「楽しみながら順調に進んでいる」「もう少し頑張れたかな？」「このままではまずい！」等々、いろいろと思うところがあると思います。この冬休み期間を利用して、まず振り返り、高校生活の後半戦をどのように進めていくのか計画を立てましょう。逆算した取り組みで、悔いのない高校生活を送ってほしいと思います。

それではよいお年をお迎えください。

◎続いて3組副担任 鈴木 唯 先生からです。

### 「壁」か、「行きたい場所」か

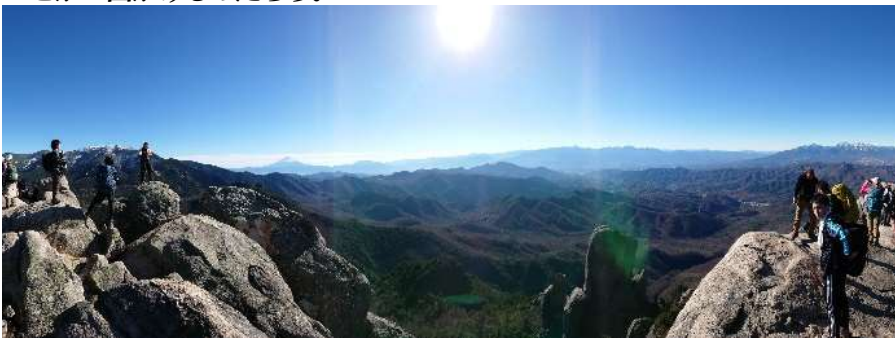
地理教師として就職して1年目の鈴木唯（その頃はまだ飯島）は、悩んでいた。悩みとは、「地理の先生っぽい趣味」がないということである。周りの地理学を学んでいる人は飛行機マニアや鉄道マニア、あるいは地形を眺めて興奮できる人だらけ。強いて言うなら私は聖地巡礼マニアですかね、みたいな返しをしながら、さてどうしたものか…と思っていたその頃、声をかけてくれたのが、用務員のYさんだった。

「先生、山、登ってみない？」

ルーキーの時代である。とにかく何かが出来るとは逃さない、というポリシーを立てていた私は、Yさんに付いていくことにした。初めての登山、最低限登山靴は買ったものの、それ以外の装備は部活の流用。決して褒められた装備ではなかったし、それ故に疲労度もかなり高かった。けれど、富士吉田にある山頂からこの目で見た、東京の高尾山、静岡の駿河湾まで見渡せるあの景色は、生涯忘れられないものになった。

それからというもの、春夏秋冬、シーズン毎に開かれる登山会に参加を続け、登山アプリによると登った山頂は30座になった。いわゆる「やみつき」というやつである。

さて、登山を始めてからというもの、毎日否が応でも目に入ってくる山を見ると、「あその山頂からは、何が見えるんだろう」と考える様になった。今までは、周囲を囲む山脈とは、自由を阻むウォールマリアの様に、ここが田舎である原因の「壁」だと見えていたのに。そして、地理を教えながら自分も地理学を学ぶ中で、周りに広がるこの山が見せてくれる一つひとつ違う景色が、大地の長い長い営みの中で作られた奇跡／軌跡に思えた。要は、ものの見方がアップデートされたのだ。この山梨には、私が知らないことがまだたくさんある。私がまだ見ていないものがたくさんある。鈴木はきっと、足元のまだ知らない世界を知るために、これからもふらっとどこかへ出かけるのだろう。



2023年秋、瑞嶽山山頂より